

## 第51回通常総会を開催しました。

令和元年5月21日

長野市内において、ご来賓、役員・会員多数の出席を得て協会の通常総会を開催しました。

高見澤秀茂会長はあいさつで「半世紀にわたる協会の歴史は、多くの役職員並びに会員に支えられて積み上げられたものであることに、改めて感謝申し上げます。平成30年間で、協会加盟の会員社は204から86へと約6割減少し、砂利等骨材の出荷も740万m<sup>3</sup>から190万m<sup>3</sup>へと、実に4分の1の水準にまで減少した。平成の時代は国や県の予算配分が公共投資から高齢者の医療費や介護など福祉へと大きく転換してきたことで、砂利等骨材需要も大きく減少したものであるが、この傾向は今後とも続き骨材需要が増加に転じるとは予想しがたい。砂利が社会資本を支える資源として必要であることに変化はないものの、厳しい社会情勢の中で、砂利を安定して生産しユーザーの需要に応え、また、若年層の雇用対策を行い、地域の地場産業として個々の企業が生き残ることは大変な苦労が予想される。そのためにも、コストを反映した適正な販売価格の水準を維持すること、各地区の組合による共販制度をしっかりと前面に出して、会員各社が協調していくことが求められる。」と、会員の結束を呼び掛けました。

議長には太田純雄副会長が就任。議案第1号から4号までの議案全てが承認されて、片井副会長の閉会のことばで通常総会が終了しました。

総会の席上、長期間に亘り本会並びに業界の発展にご尽力をいただいた、(株)塩沢産業の両角俊男様、久間久史様、(株)平岡砂利の熊谷博光様、野牧操様、大平千寿子様へ、協会長表彰状と記念品が贈呈されました。

